

## 『宮内庁書陵部所蔵韓国本目録』の発刊報告

朴相國(国立文化財研究所 芸能民俗研究室長)

### 1.

海外典籍調査研究会(会長チョンヘーボン)から、韓国文化芸術振興院の支援で、海外に所蔵されている韓国の典籍文化財を調査している。この調査は1991年から海外に所蔵されている韓国文化財の実態を把握して、学界に關聯情報を提供するための『海外所蔵典籍調査目録』を発刊しているが、この度は、日本の宮内庁書陵部に所蔵されている636種4、678冊に対する韓国本の目録を発刊した。

今回、発刊された日本の宮内庁書陵部の韓国本目録は、1998年から2000年までの3年間、成均館大学前教授の千恵鳳、文化財専門委員の李廷燮、朴相國等、3名が毎年2週間程ずつ、現地調査をした結果である。現場で調査した書誌事項は帰国後、マイクロフィルムで写してきた、これら複写物と国内の目録等を照合させ、また、比較して清書、整理し、経・史・子・集の四部分類法に従い分類し、後ろに書名と人名索引を添附して発刊したものである。

宮内庁書陵部とは、日本の皇室の譜系・実録・図書・公文書・陵墓等の業務を編修・管理するための目的で設立された機関として、以前は宮内省図書寮として称されていたものを、1949年に宮内庁書陵部に改編したもので、一般の図書館とはその設立目的が違うため、日本国内においても閲覧する事は難しいと噂されている処である。しかし、書陵部では調査日程の協議から、調査者の便宜を崔優先で配慮していただき、閲覧室が狭小な為(最大収

容人員6名)私達が調査するときは、日本学者達の出入りを禁止するまでの積極的な協力で、調査を無事に終えることが出来るようにしていただいた。

## 2.

宮内庁書陵部の韓国典籍は、秘閣図書之章、朝鮮総督府寄贈、宮内庁図書印、帝室図書之章等の所蔵印が押されており、その収集経緯を知る事の出来るところが特徴である。

このような所蔵印を中心として、よく見ると、秘閣図書(内閣文庫)の移管本、朝鮮総督府の寄贈本、それ自体の予算によって購入した典籍、一般の寄贈本等で構成されていた。

特に、内閣文庫の移管本96種と医書類38種、朝鮮王室の儀軌77種、統監府法制官を経た、浅見倫太郎の寄贈本となる拓本109点等は、珍しくて貴重な資料として評価される。そして、『玉機微義』等、朝鮮前・後期の各種の活字本が、国内とは違い欠本がなく完璧に伝来されていた。この中で、国内にない稀少で珍しい本を幾つか紹介するならば、次の通りである。

### ① 朝鮮国王李昖贈豊太閤書并物目

‘朝鮮国王李昖贈豊太閤書’として始まるこの文書(58. 3×115cm)は、宣祖大王の御諱(王の名前)が使われており、‘為政以德’という璽宝が押されている。そして、別幅の礼物として送られた物目単子が添附されている。当時、日本は豊臣秀吉が60余州を統一して執権した後に、1587年から毎年、国使を送り通信使の派遣を要請したが、しばし送らず、1590年3月に黄允吉を通信使として、金誠一を副使に、許箴を従事官に任命して派遣したのだが、このときに持って行った外交文書である。

この文書の内容は次の通りである。

‘朝鮮国王李昖贈豊太閤書并物目

朝鮮国王 李 昖 奉書

日本国王殿下

春候和煦

動静佳勝

遠伝

大王一統六十余州 雖欲速講信修睦 以敦隣好 恐道路湮晦 使臣行李 有淹滯之憂歟 是以多年思而止矣 今令与貴价 遣黄允吉・金誠一・許箴三使 以致賀辞 自今以往 隣好出于他上幸甚 仍不腆土宜 録在別幅 庶幾

笑留 余

順序珍嗇 不宣

万曆十八年三月 日

朝鮮国王李 昖

<別幅>

良馬 貳匹

大鷹子 拾伍連

鞍子 貳面 諸縁具

白綿紬 伍拾匹

黒麻布 參拾匹

白苧布 伍拾匹

青斜皮 拾張

人參 壹百斤

豹皮心児虎皮邊児狽皮裏阿多介 壹坐

豹皮 貳拾伍張

虎皮 貳拾伍張

彩花席 參拾張

満花方席 拾張

紅綿紬 拾匹

清蜜 拾壹壺

白米 二百碩  
海松子 陸碩

整

朝鮮国王李昖が豊太閤に贈る書簡-並びに物目-

朝鮮国王李昖は日本国王殿下に書を奉ります。

春の候は暖かく、動静は安らかでいらっしゃいますか。

大王には、60余州を統一されたと遠くより伝わって参りました。それで、速やかに信義を講究し親睦を磨いて、友好を更に篤いものにしようとしたのですが、道は険難で、使臣の一行が水に溺れるのではないかと恐れていました。

今、貴国の使臣と共に黄允吉・金誠一・許箴の3使臣を送り、賀辞を差し上げます。今日以後は、両国間の友好が以前にも増して、より以上に良くなって行く事を願っております。続いて粗末な土産物ではありますが、別幅に記してありますので、笑ってお納めください。

終わりに、節序に従い珍重されますよう、これで語を措きます。

万曆18年3月の日に

朝鮮国王李 昖

<別幅>

良い馬[良馬]2匹、大きな鷹[大鷹子]15連、鞍[鞍子]2面一附属物全て具備一、白い絹織物[白綿紬]50匹、黒い麻織物[黒麻布]30匹、白い苧織物[白苧布]50匹、青黒い貂の毛皮[青斜皮]10張、人参1百斤、豹の毛皮[豹皮]を芯(心)に虎の毛皮を縁に山羊の毛皮を中に入れて作った褥(座布団)1坐、豹の毛皮[豹皮]25張、虎の毛皮[虎皮]25張、彩花席30張、満花方席10張、紅い絹織物[紅綿紬]10匹、蜜[清蜜]11壺、白米2百俵[碩]、朝鮮松の実[海松子]6俵[碩]

整

※ '整'の字の上に'為政以德'という璽宝が押されている。

通信使一行は、明るる1591年に帰国したが、国王に報告するとき、通信使は日本の侵入があるだろうと報告し、副使は侵入の兆しを見ることができなかったと報告し当時の物議を醸した歴史を表している。彼らが帰国した明るる年の1592年には壬辰倭乱(文禄の役)が起り、金誠一は宣祖大王の譴責

を受けたが、直ちに慶尚道の觀察使に任命され、国難回復に尽力したが過労で殉職した。彼は当時、民心の動揺を鎮めるため真心からそのように報告したとされる。この文書は、韓・日間に外交的に往来した文書の中で最も古い文書であり、そればかりでなく、歴史的にも貴重な外交文書である。

## ②『宋楊輝算法』

宋の国の楊輝が著した算学書。世宗15年(1433)に慶州府で木板として刊行された。乗除通變算書・法算取用本末・続古摘奇算法・田苗比類乗除捷法等が収録されている。4巻3冊、木版。国内の目録にはなく、中国の四庫全書総目提要にも見られない稀貴本である。

## ③『通典』

唐の国の、杜佑(735~812)が著した政書。劉秩(732前後存世)が撰述した'政典'に従い、更に拡大して食貨・選挙・職官・礼楽・兵形・州郡・辺防の8門に分けられ、各門に、また子目を分け、上は黄帝から、下は唐の天寶(玄宗)の時までの経史と文集の秦疏から、得失に関するものを類別に編輯した冊。

この冊は"高麗国十四葉辛巳歳御蔵書 大宋建中靖国元年 大遼 乾統二年(1101)"という御蔵印が押されており、高麗の肅宗が北宋から収集し所蔵した冊であることが分かる。そして、"経筵"という蔵書印も押されており、朝鮮王朝の王室教育機関である経筵でも使われていたことが分かり、高麗と朝鮮の両方の代の王室で使われた冊であることが分かる。

この他にも、"経筵"印が押された冊として、随の国の儒学者、王通(584~618)が著した儒家書である『文中子中説』と、宋の国の、温大明が著した医書の『温氏隠居助道方服薬須知』等がある。

## 3.

<参考> 海外典籍調査研究会から年度別に調査した所は次の通りである。

1991年: 日本 名古屋の蓬左文庫、

日本 東京の成實堂文庫 337種 2、773冊。

- 1992年: 日本 京都の京都大 河合文庫 727種 2、496冊、  
日本 京都の相国寺 1、490種 5、967冊。
- 1993年: 米国ワシントン 美議会図書館 451種 2、933冊。
- 1994年: 米国ニューヨーク コロンビア大 東亜細亜図書館 817種 2235冊。
- 1995年: 米国バークレー バークレー大 東亜細亜図書館 839種 4013冊。
- 1996年: 日本 京都 南禅寺 初雕大藏經 530種 1748冊。
- 1997年: 日本 東京 国立公文書館 内閣文庫 209種 2455冊。
- 1998-2000年: 日本 東京 宮内庁 書陵部 636種 4678冊
- 2001年: フランス パリ 東洋語学校 98種 341冊、  
パリ キメー博物館 100種 224冊。

## ◆ 会誌出版費及び研究調査支援金

『韓国仏教学SEMINAR』第9号発刊のための研究調査支援金として次のように浄財をいただいた。改めて各々の機関及び個人の方々に心より深く感謝を申し上げます。

大韓仏教曹溪宗教育院	二百万 won
性徹禅思想研究院	一百万 won
図書出版蔵経閣	出版費全額
혜거(大韓伝統仏教研究院)師	二百万 won
세민(海印寺住持)師	一百万 won
宗釋(中央僧伽大学教授)師	二十万 won
本覺(中央僧伽大学教授)師	二十万 won
성호(梵魚寺住持)師	五十万 won
서옹(白羊寺方丈)師	二十万 won
匿名(東国大学校)師	三十万 won
淨嚴(中央僧伽大学教授)	五 万 yen
石上善応(大正大学名誉教授)	一 万 yen
石井修道(駒沢大学教授)	五 万 yen